

[連載] 第36回

# 清々しき人々

月尾 嘉男 (東京大学名誉教授・工学博士)

## 理系と文系の両方で 奇才を発揮した

# 平賀源内

### 幼少から才能を発揮

「元内」「国倫」「子辨」「鳩溪」「李山」「風来山人」「福内鬼外」「天竺浪人」「貧家鏡内」。これらは一人の人間の名前です。現在でも作家には筆名、画家には雅号などがあり、複数の名前があるのは特別なことではありませんが、この人物は職業も画家、俳人、作家、本草学者、発明技師、開発業者など多岐でした。この奇才という言葉以外に表現ができない人物、一般には平賀源内という名前が江戸時代中期に活躍した著名な人物を今回は紹介いたします。

源内は享保二年(一七二二)に讃岐国寒川郡志度浦に讃岐高松藩の足輕身分の白石茂左衛門の三男として誕生しました。すでに幼少の時期から才気活発で、一歳ときには「御神酒天神」という掛軸を作成しています。掛軸の天神の画像の顔を切抜き、裏側に普通の肌色の顔面と飲酒で赤色になった顔面の画像を用意し、それを上下に移動させることによって天神さんが飲酒で肌色の素面から赤色の顔面になるという仕掛けです。

それが評判になり、一三歳で藩医から本草学を手解きさせますが、二〇歳のときに父親が死亡したため、その後継として讃



平賀 源内 (1728-80)

岐高松藩の蔵番となります。ここでは無難に仕事をしていますが、四年が経過した二四歳のとき、藩命で長崎に遊学する機会があり、そこで当時の世界の先端にあった医学、絵画、本草学などを勉強し、翌年に帰藩します。しかし長崎での刺激が強烈であったため、さらに勉強しようとする旨を妹婿に譲渡し、辞職してしまいます。

そこで早速、発明の才能を発揮して「量器器」を発明します(図1)。これは歩数で距離を計測する装置で、円盤のような機械を身体に装着して歩行すると内部の振子が一歩ごとに振動して距離を表示する装置で、一面は一間から六〇間(約一〇〇メ



図1 量器器 (1755)



図2 平賀源内記念館



図3 『博物図鑑』 (1763)

### 抜群の企画し 起業する能力

これらを故郷への土産とし、二八歳になった一七五六年、勉学のため、大坂や京都を経由して江戸へ上京し、本草学者田村藍水(元雄)の弟子として勉強。さらに林家に入門して漢学も勉強するようになります。この林家は江戸時代初期の儒学者林羅山の始祖とする名門で、徳川綱吉の命により林家は一六九〇年に孔子を祭祀する湯島聖堂を開設しました(図2)。一七九〇年には、この場所に幕府の教育機関の昌平坂学問所が開設されています。

この勉学期間にも、源内は企画能力を発揮し、弟子となった翌年の一七五七年に、師匠の田村藍水主催で「第一回薬品会」を開催します。これは全国各地の薬品や物産を展示し、取引もする仕組みでした。この成功により、翌年に第二回薬品会、さらに翌年に第三回薬品会を開催したところ、その活躍に注目した

高松藩に家臣として再度、三人扶持で登用されることになりましたが、やはり堅苦しい勤務には馴染まず、一七六二年に辞職しています。

江戸へ帰還した源内は早速、全国二五カ所に産品を取次ぐ場所を開設し、料金着払いで各地から産品を集め販売する「第五回東都薬品会」(一七六二)を湯島で開催、これも成功させます。源内は各地の産品を全国規模で流通させる仕組みを創設しただけではなく、五回の市場に出品された二〇〇余種の産品のうち三六〇種を選定し、その評価も記載した図入りの「物類品鑑」(六巻)を出版したことで、源内の代表書籍になっています(図3)。

このように源内は企画し実行する才能があり、全国各地で新規事業を起業しています。三八歳になった一七六六年には武蔵川越藩の依頼で秩父山中を探索して金山や鉄山を発見し、幕府の許可も取得して事業を開始しています。さらに製鉄のための薪炭を安価に生産する事業を拡大し、それを荒川の舟運を利用して江戸へ輸送する事業にも着手しています。いずれも残念ながら成功しませんでした。が、起業する発想は天性のものでした。

## 色のない街 フクシマからあなたへ

新刊



藤島昌治 [詩]

東日本大震災による原発事故から流浪の人となりやがて仮設暮らし。  
2016年7月小高区避難指示解除になると東白川郡に終の棲家を求めた著者。しかしそこでの孤独な日々、そして病が。

ありがとうしか言えない  
会いに来てくれて、  
ありがとう  
手を握ってくれて、  
ありがとう  
いつも力になってくれて  
ありがとう  
いつも優しくしてくれて  
ありがとう  
一緒に笑ってくれて  
ありがとう  
一緒に泣いてくれて  
ありがとう  
いつも応援してくれて  
ありがとう  
ありがとうしか言えない

四六判 上製 91ページ 本体1,700円+税 ISBN978-4-902443-51-6 C0092



文芸や絵画でも能力を発揮

源内の能力は起業とは異質の文芸と絵画でも発揮されていま...

四二歳になった一七七〇年には浄瑠璃にも進出します。それ...

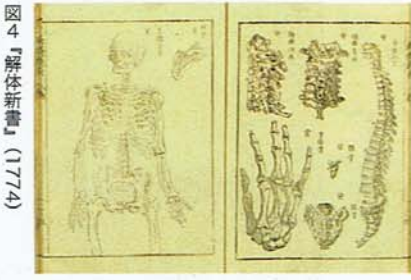


図4『解体新書』(1774)



図5『蘭学事始』(1869)

した「西洋婦人図」一点のみとされてきましたが、江戸中期から...

酒宴が家屋で開催され、全員が泥酔していました。明方になっ...

時代の変化を反映した活躍

源内は一種の天才ですが、このような多種多様な分野で能力を発揮...

源内は一種の天才ですが、このような多種多様な分野で能力を発揮...

野に能力を発揮した異才です。しかし、それは自身の才能が発...

源内は男色趣味で生涯妻帯しなかつたことも影響して変人と...



つぎお よしお

1942年生まれ。1965年東京大学工学部卒業。工学博士。名古屋大学教授、東京大学...

編集後記

38年ぶりとなったローマ教皇(法王)は4日間に及んだ、日本滞在を終えて帰路に着かれた。

写真。原爆の悲惨さは、この一枚の写真を持って世界中に知らしめた。しかしこの少年の行方は知る...

「平和と安定は団結と協力に支えられた道徳観からしか生まれな...

12月号 令和元年12月2日発行
編集 モルゲン編集部
発行 (株)遊行社
印刷 北日本印刷(株)